

まなざしの輪

朝夕の風に涼しさが感じられるようになり、園内に咲く金木犀から甘く心地よい香りが漂う季節となりました。夏休みを終え、子どもたちの元気な笑顔とともににぎやかな2学期がスタートいたしました。休み中の様々な体験を経て、一回り大きくたくましくなった姿には目を見張るものがあります。今回は、園生活や地域の豊かな自然体験の中で、子どもたちが自ら思いを広げ、友達とともに深めていく日常の豊かな学びの足跡をお届けいたします。

【3歳児】

先生や友達と一緒に過ごす安心感の中で、遊びの世界をより豊かに広げる姿が見られます。親子園外保育で昆虫館と昆陽池公園へ出かけた後の月曜日、子どもたちから「大きな蜂を作りたい」と声が上がりました。作り始めると、本物の蜂を思い浮かべる子、展示されていた巨大な蜂をイメージする子と様々でしたが、ある子が蜂に食べさせる「蜜」を作り始めたことをきっかけに、友達の遊ぶ姿に刺激を受け、自然と本物の蜂作りへとイメージが一つに繋がっていきました。大人が間に入って整理しなくても、互いに思いを出し合いながら共通の目的に向かって遊ぶ姿に成長を感じます。

【4歳児】

自分のイメージを身近な素材で形にし、動物になって遊ぶ楽しさを味わっています。神戸どうぶつ王国への園外保育で様々な生き物に出会った感動が今も遊びの中に息づいており、自分で作ったしっぽをゴムでお腹につけて大好きな動物になりきったり、友達とやり取りを楽しんだりする姿が見られます。「あの動物になりたい」という思いから身につける道具を工夫して作ることで、遊びの世界が広がっています。自分のイメージが形になる面白さを感じ、友達と一緒にごっこ遊びの世界に没頭する中で、仲間と目的を共有する楽しさや自分を表現する喜びを深めています。

【5歳児】

神戸どうぶつ王国で間近に触れた本物の動物たちの迫力や感動が引き金となり、友達とイメージを共有しながら「どうぶつ王国」を作る遊びが広がっています。絵の具の筆を洗っていた子に声をかけると、「ハシビロコウを作って、木を作って、木の色を塗ったの！」と手で作り上げた工程を生き生きと教えてくれました。現地で見た動物の特徴や生息地を思い出しながら、どんな材料を使えば思い通りに表現できるか試行錯誤を重ねています。子どもたちの「こうしたい」という内発的な思いを大切に、共通の目的に向かって協同して作り上げていく喜びを味わっています。

一人一人の思いが繋がり、響き合う2学期へ

保護者や地域の皆様のあたたかな温もりに支えられ、子どもたちは日々新しい発見と出会いを重ねています。3歳児の友達の姿から刺激を受けて広がっていくイメージの共有、4歳児の身近な素材を工夫して表現するごっこ遊びの広がり、そして5歳児の共通の目的に向かって協同し作り上げる確かな手応え。どの学年も、自ら考え行動する主体性と心弾む喜びに満ちあふれています。これからも一人一人の「やってみたい」という意欲と気づきを丁寧に受け止め、生き生きとした成長を温かく見守ってまいります。